





# 進化する

# 久御山

## 交流拠点都市・くみやま

### 昭

和29年10月1日、久

世郡の御牧村、佐山

村の二村が合併して「久御

山町」が誕生しました。町

名は、久世郡の「久」、御牧

村の「御」、佐山村の「山」

の文字をとってつけられま

した。合併当時の人口は

6,588人、純農村地域で

したが、昭和41年に国道

1号枚方バイパスが町の中

央部を南北に開通して、京



開通当時の国道1号枚方バイパス田井交差付近

都・大阪間の恵まれた立地条件から町の様相が変わり始め、人口や工場・事業所が急激に増加しました。

都市化が進むなか農業・工業・住宅それぞれの環境を守りながら、公園や下水道などの都市基盤と、学校や総合体育館、ゆうホール、保健センターなどの教育・文化・保健施設等を整備し、「住みやすさ」と「働きやすさ」が共存しています。安らぎとつながりに満ちあふれ、人の移動や物の流通にも便利な町として発展してきました。

広域幹線道路網が整備され、東西南北につながる交流拠点都市となった今、この利便性の高い町を、「人の視点に立った基盤整備」「個性と特色のある環境づくり」「地域力を高める協働のまちづくり活動」を基本に、住民のみなさんの意見を反映させて、だれもが「住み続けたい」「住んでよかった」と言えるまちづくりをめざして、今後も住民のみなさんとともに歩みつづけます。



地域交流センター完成予想図(平成22年春オープン予定)



# 久御山町55年の歩み

平成16(2004)年

1月  
のってこバス試験運行開始  
8月  
久御山農産物直売所「旬菜の里」オープン



10月  
男女共同参画都市を宣言

平成17(2005)年

3月  
巨椋池排水機場完成  
6月  
国道1号京都南道路開通

平成19(2007)年

4月  
のってこバス本格運行開始

平成20(2008)年

4月  
子育て支援センター「あいあいホール」オープン

平成21年



平成21(2009)年

3月28日  
住所表示変更(大字小字を廃止)



新役場庁舎

平成11(1999)年

3月  
交通安全推進のまちを宣言  
4月  
財団法人文化スポーツ事業団を設立  
8月  
ふれあい交流館「ゆうホール」・図書館オープン



平成12(2000)年

4月  
新役場庁舎完成

8月  
町長選で坂本信夫氏初当選

平成15(2003)年

3月  
第二京阪道路部分開通  
4月  
健康センター「いきいきホール」オープン

昭和63(1988)年

8月  
町長選で田口清氏初当選  
京滋バイパス一部開通  
国道24号大久保バイパス北伸部開通  
9月  
体育協会発足  
10月  
京都国体秋季大会開催(サッカー・馬術)

平成元(1989)年

5月  
第1回町総合体育大会開催  
10月  
平和都市を宣言  
11月  
第1回ふるさとフェア久御山を開催



昭和53(1978)年

4月  
中央公園野球場オープン



9月  
東角幼稚園開園

11月  
「くみやま音頭」ができる

昭和54(1979)年

7月  
中央公民館図書室貸出開始

昭和55(1980)年

4月  
府立久御山高等学校開校

昭和56(1981)年

4月  
御牧幼稚園開園  
5月  
体育振興会結成

7月  
青少年健全育成協議会発足

昭和58(1983)年

7月  
木津川河川敷運動広場オープン

昭和60(1985)年

4月  
老人福祉センター「荒見苑」オープン



昭和61(1986)年

7月  
町民プールオープン



昭和48(1973)年

4月  
国道24号大久保バイパス開通  
8月  
建設省久御山排水機場完成  
12月  
都市計画の用途地域決まる

昭和49(1974)年

6月  
消防本部・消防署発足

昭和50(1975)年

3月  
住民憲章・町のうたを制定  
4月  
久御山中学校開校、東角小学校開校、佐山幼稚園開園、宮ノ後保育所開所  
8月  
久御山団地入居開始



11月  
中央公民館オープン

昭和51(1976)年

3月  
新消防庁舎完成



佐山排水機場完成

4月  
新淀大橋完成

7月  
中央公民館に図書室オープン

11月  
第1回町民文化祭開催

昭和52(1977)年

1月  
府営東佐山団地入居開始

昭和41(1966)年

1月  
町長選で鶴ノ口平太郎氏初当選  
3月  
国道1号枚方バイパス開通



昭和42(1967)年

1月  
町広報紙を創刊  
6月  
老人クラブ連合会発足  
10月  
第1回町民運動会開催

昭和43(1968)年

4月  
天ヶ瀬ダム上水道通水式  
7月  
ゴミ収集業務開始

昭和44(1969)年

6月  
上水道工事完成  
7月  
役場庁舎(旧)完成  
10月  
「町章」制定

昭和45(1970)年

2月  
消防庁舎(旧)完成

昭和46(1971)年

12月  
都市計画の区域区分決まる

昭和47(1972)年

3月  
町の木に「さざんか」、町の花に「さつき」を制定  
6月  
町の人口10,000人突破  
商工会発足

昭和29(1954)年

10月  
御牧村と佐山村が合併し、久御山町が誕生(人口6,588人、世帯数1,235世帯、面積13.86km<sup>2</sup>)  
町消防団発足  
11月  
初代町長に田村義雄氏を選出

昭和30(1955)年

4月  
町長選で西村正作氏初当選  
10月  
国勢調査で町の人口6,524人、世帯数1,225世帯  
11月  
役場庁舎を田井に移転



昭和29年

昭和31(1956)年

2月  
社会福祉協議会結成  
6月  
御牧保育所開所  
12月  
財政再建団体に指定

昭和32(1957)年

4月  
淀中学校が京都市・久御山町事務組合立となる

昭和34(1959)年

8月  
台風7号による集中豪雨で巨椋池干拓田冠水

昭和35(1960)年

3月  
財政再建団体の指定解除  
5月  
国民健康保険制度を実施

昭和38(1963)年

4月  
町長選で澤野平右衛門氏初当選

## 2 心とらぐ

### 自然や歴史とふれあえるまち

山林のないまちの環境に潤いをもたらす、憩いとやすらぎのあるまちを実現するため、豊かな自然、歴史的資源の保全や公園・緑地の整備と改善に努めるとともに、親しみある水辺環境の創出などに取り組んでいます。

### 夢と希望を持ち、学ぶ楽しさを実感できるまち

子どもたち一人ひとりの豊かな個性を伸ばすとともに、子どもからお年寄りまで、すべての人が夢と希望を持ち、学ぶ楽しさにふれることのできるまちを実現するため、教育環境や生涯学習環境の充実などに取り組んでいます。

## 3 躍動のまち

### 働く人が元気なまち

有利な広域交通基盤により発展してきた商工業は、人々の雇用の場であり、町の発展を支えてきました。また、大都市近郊で展開されている農業は、食料の生産に加え、その基盤となる農地は、人々に安らぎを与える保養機能や洪水時の遊水機能など、多面的な機能を有しています。こうした地域産業の安定した発展と動きやすいまちを実現するため、商工業においては、経営に対する支援をはじめ、操業環境や労働環境等の向上を求めています。農業においては、経営の基盤強化、生産組織や後継者の育成などに取り組んでいます。

### にぎわいを発信するまちの拠点

誰もが住みたい、住み続けたい魅力あるまちを実現するため、さらに公共交通の充実を図るとともに、交通の結節点として、商業機能や公共交通機能などが集積したまちの拠点づくりに取り組んでいます。

### 安住を促す住宅施策を展開

人口の減少や高齢化が進む本町において、転出傾向の著しい若いファミリー層の安住化と、昼夜間人口比率が高いという特性を生かした職住近接のゆとりと活気にあふれるまちを実現するため、周辺の農業環境や工業環境等との調和に十分配慮しつつ、良質な住宅地の確保や快適な住環境の誘導などに取り組んでいます。



## 1 人輝き

### みんなで支え合い、健康でやすらぎのあるまち

少子高齢化社会を迎えて、誰もが安心して子育てができるとともに、高齢者や障害のある人がいつまでも健康で安心して暮らせるまちを実現するため、地域福祉ネットワークの構築や介護予防の充実などに取り組んでいます。

### みんなで安全で安心なまち

水害や地震など自然災害に対する安全性を確保するとともに、犯罪や交通事故のない安全で安心なまちを実現するため、防災・防犯対策の充実や交通安全等の確保に取り組んでいます。

### 誰もが参加しやすいまち

本町においては、人口減少や核家族化、価値観の多様化等に伴い、地域コミュニティが衰退しつつあります。地域コミュニティを活性化し、活発な地域活動が展開されるまちを実現するため、誰もが参加しやすい自治会活動や住民主体のまちづくり活動などに取り組んでいます。







## ② 心とらぐ

自然や歴史とふれあえるまちをつくらう！



のどかな自然の風景や歴史的な遺産が数多く残っています。それらは、住民にとっての憩いの場でもあり、変わりゆく町をずっと見守ってくれたものです。これらの貴重な自然や遺産を後世に伝えていきます。

夢と希望を持ち、学ぶ楽しさを実感できるまちをつくらう！



▲AETとのふれあい



▲漢字出直し塾(ゆうホール)

未来を担う子どもたち一人ひとりの個性を育て、人間性あふれる社会人に成長できるように、先進的な幼児教育をはじめ、国際化や情報化社会に対応するための英語教育やコンピュータ教育などを実践しています。

**坂本町長のつらぐ**  
久御山の地域のことから学んでいただき、そして義務教育の環境を少しでも良好にの思いで、今日まで事業を進めてきました。また、みなさんは日々の生活の中にほっとできる空間をもつていただき、そして、特技や趣味を生かして、心にゆとりを持ち、充実した人生を送っていただきたいと思えます。

## ① 人輝く

みんなので支え合い、健康でやすらぎのあるまちをつくらう！



まちづくりの第一歩は、子どもから高齢者まですべての人が安心して暮らせる社会にすることです。本町では乳幼児の成長や女性の社会進出の支援、高齢者の生きがい対策として保育所やいきいきホールなどでの様々な事業を実施しています。

**坂本町長のつらぐ**  
みなさんが生活しているうえで「安全と安心」は、欠かすことのできないものです。私は町政を進めるに当たって、いつもこの言葉を基本においています。  
子どもからお年寄りまで、当たり前前に生活できることの大切さを大事にしていきたいと思っています。



▲荒見苑のサークル活動

住民のみなさんが、気軽に交流できる機会、豊かな時間と気持ちを共有できる場所。そこから笑顔と活気ある町が生まれます。「スポーツフェスティバル」や「町民文化祭」など、人が生きていくうえで欠かすことができない「心あたたかなふれあい」がたくさんあります。

誰もが参加しやすいまちをつくらう！



みんなですべて安全で安心なまちをつくらう！

住民の安全・生命・財産を守るため、防犯・防災体制を確立し、様々な活動をおこなっています。また住民のみなさんも万一の災害に備えての研修や訓練を実施、小学生の登下校を見守る安全パトロールをおこなうなど、地域の安全・安心のための活動を積極的に展開されています。





国道1号、国道24号、京滋バイパス、第二京阪道路の開通は、地域発展の要で町に活力とうるおいをもたらしました。この交通網の結節点を利用し、今後はまちの拠点づくりを進めていきます。

にぎわいを発信するまちの拠点を つくろう！



安住を促す住宅施策を展開しよう！



豊かな自然に恵まれている本町では、さらに公園、緑地の確保、公共施設等の緑化の推進、水辺環境の整備などを進めています。周辺の農業や工業環境などと調和の取れた住宅環境を確保しています。また、バス交通を生かしたより便利なまちづくりを目指し、「のってこバス」による鉄道駅へのアクセスや日常生活の利便性の向上・サービスの充実に力を注いでいます。



### 3 躍動のまち

働く人が元気なまちをつくろう！



町内には、製造業や食品会社などの工場が多数あり、ものづくりの町として発展しています。一方、農業では、<sup>おぐらけ</sup>巨椋池干拓田で収穫されるお米をはじめ、ほうれん草などの軟弱野菜やナスなど良質で新鮮な農産物が作られています。また、トマトの水耕栽培などの新しい農業もとりいれています。

#### 坂本町長のPR

まちの繁栄を支える産業面では、立派な、卓越した技術で業界をリードされている企業が町内には、数多くあります。そうした企業の活力を地元で発揮していただき、全国に発信されることを願っています。

また、近郊農業の特性を生かし、有数の新鮮野菜生産の町として「くみやま産」を全国にPRしていきたいと思えます。



▲製造工場での原材料の調合